

# 症例2

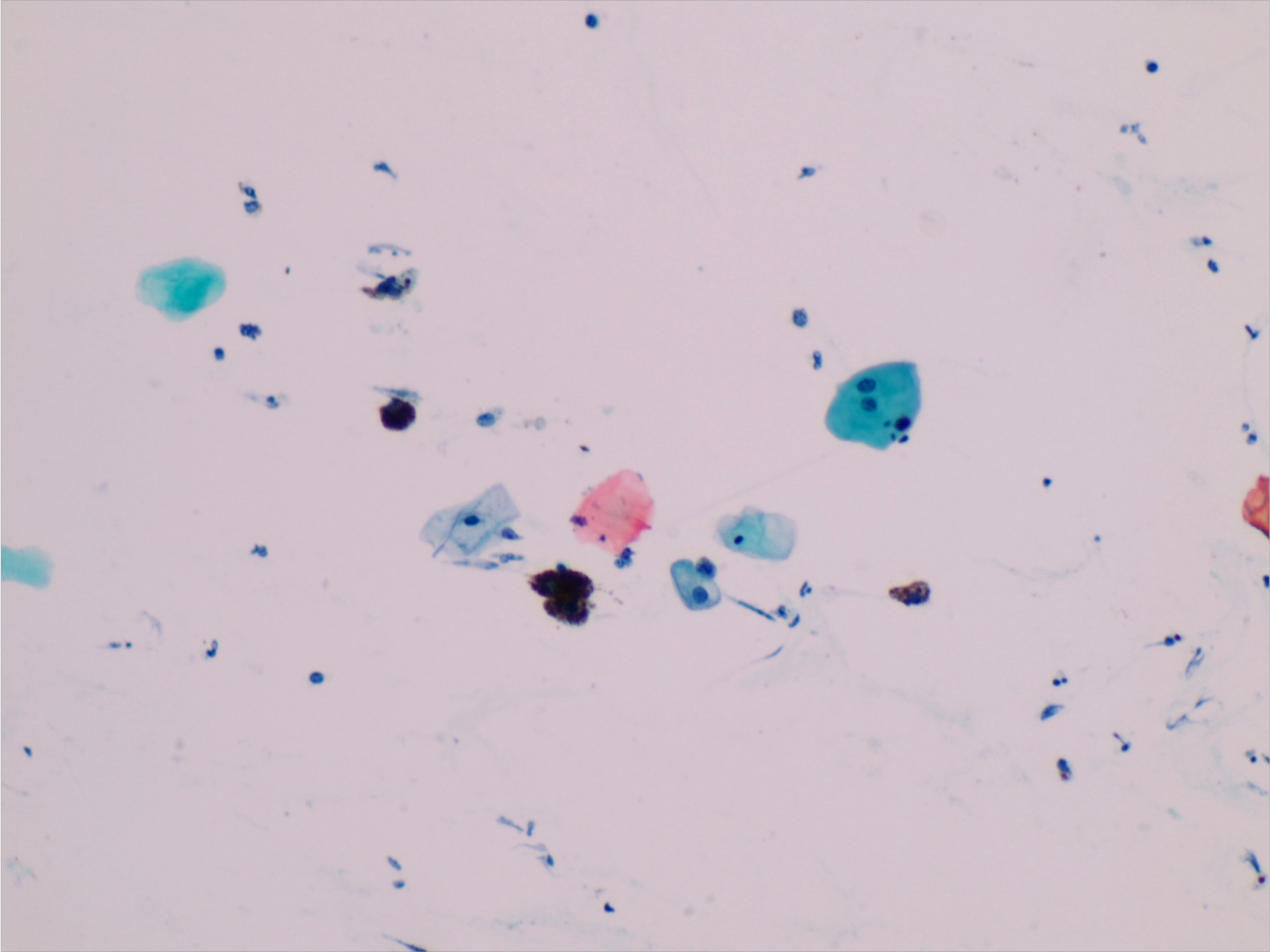
那霸市立病院

# 症例2

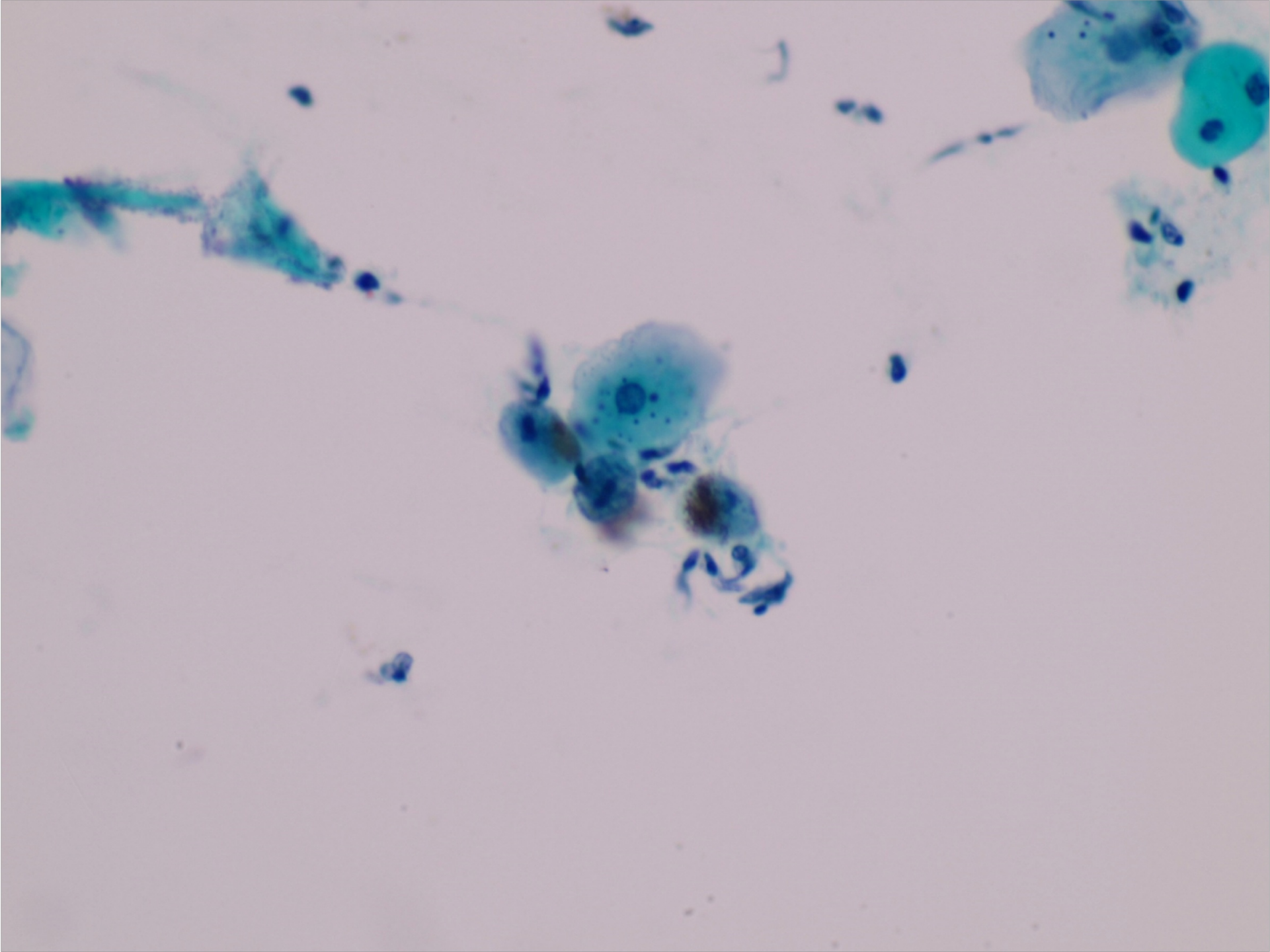
患者：70歳代 女性

現病歴：関節リウマチにて近医通院中、右鼠径部痛の訴えあり 親指頭大の腫瘍がみられ精査目的にて紹介受診

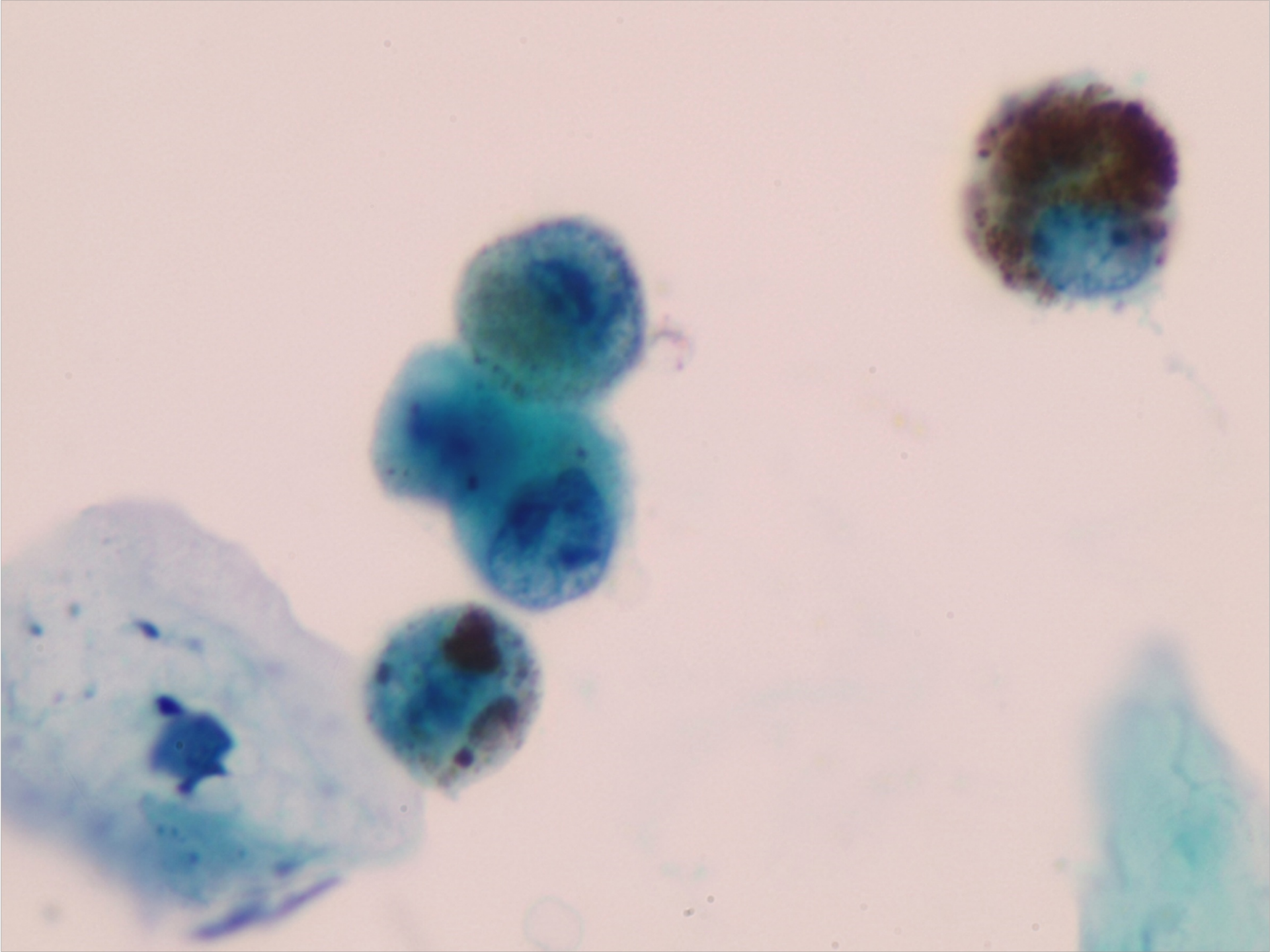
自然尿



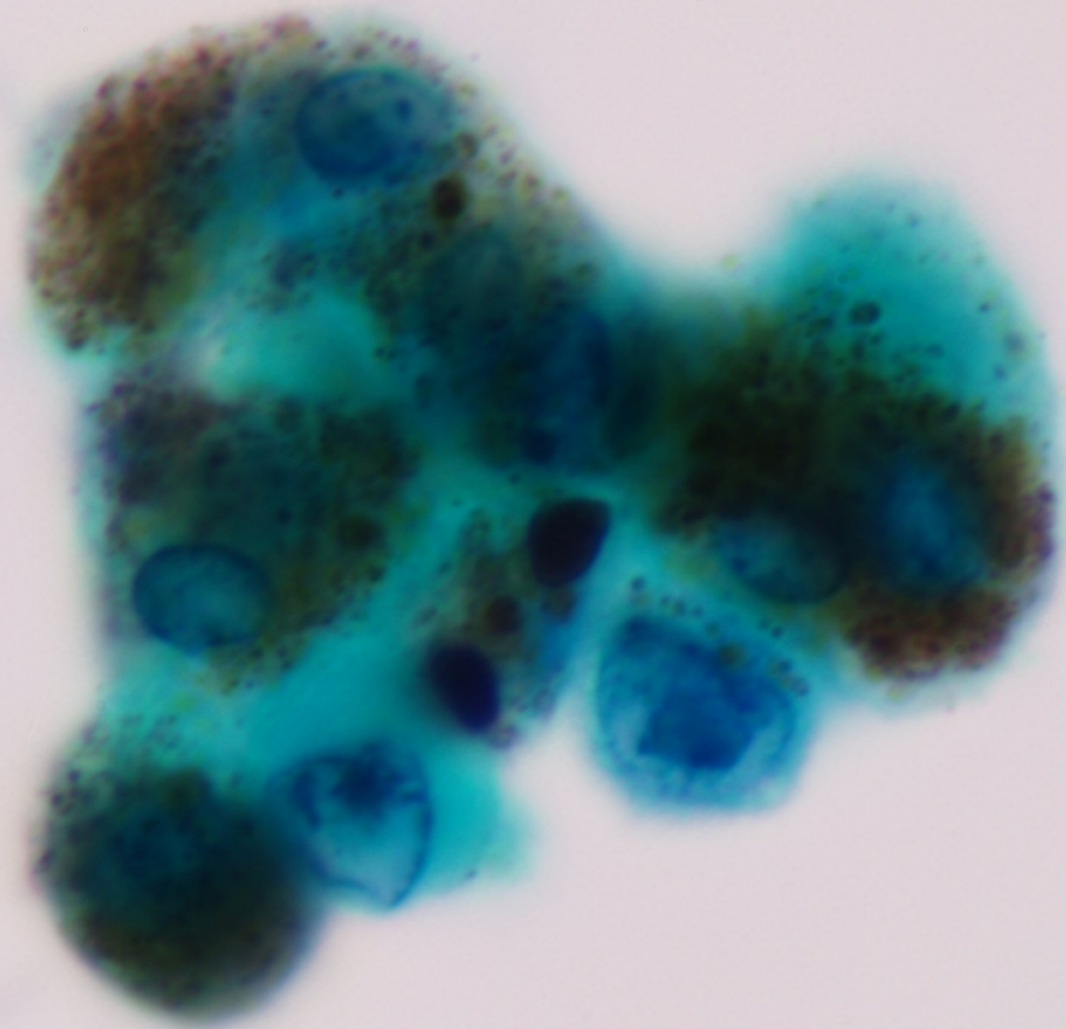
× 10



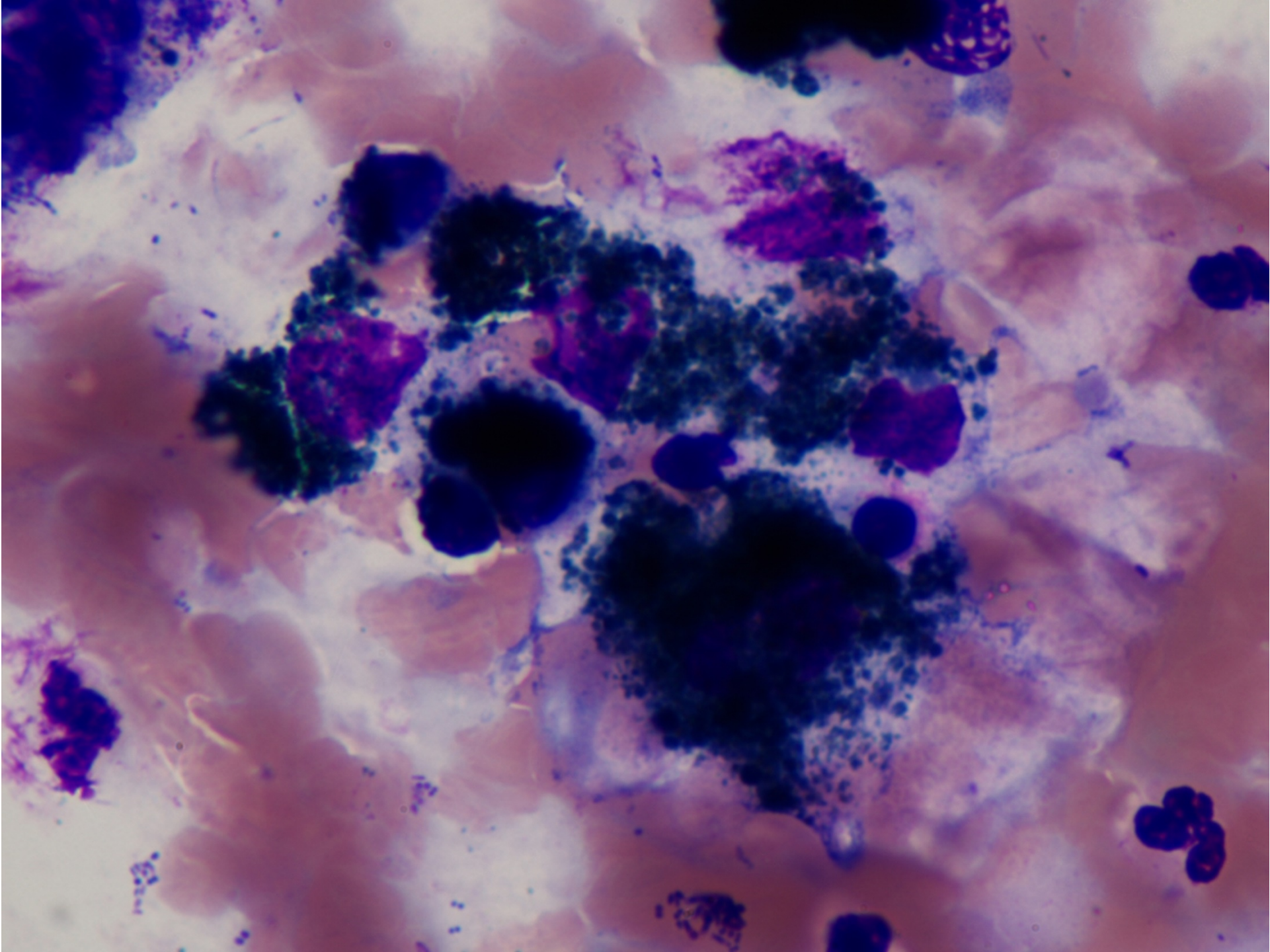
× 40



**× 100**



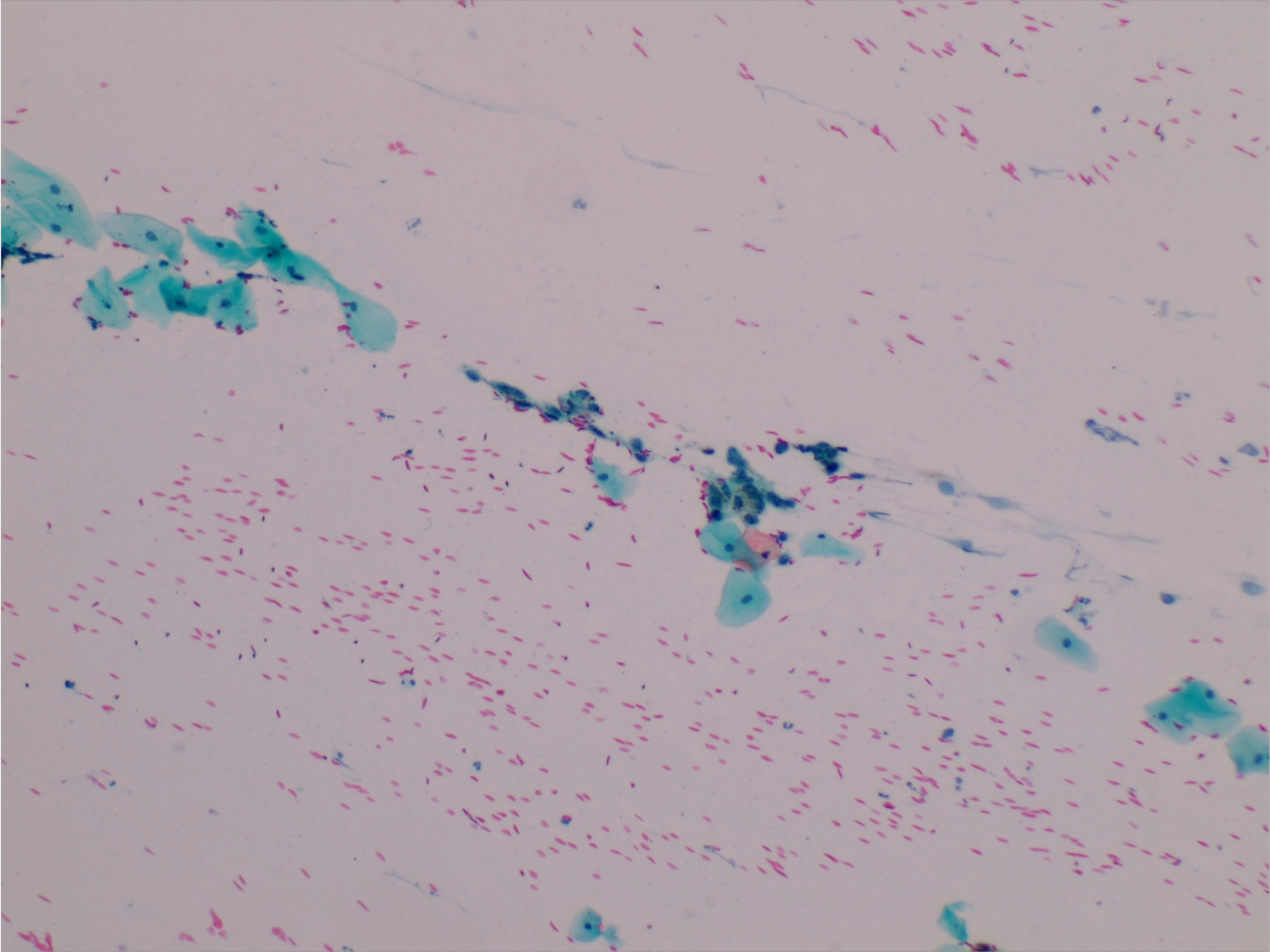
× 100



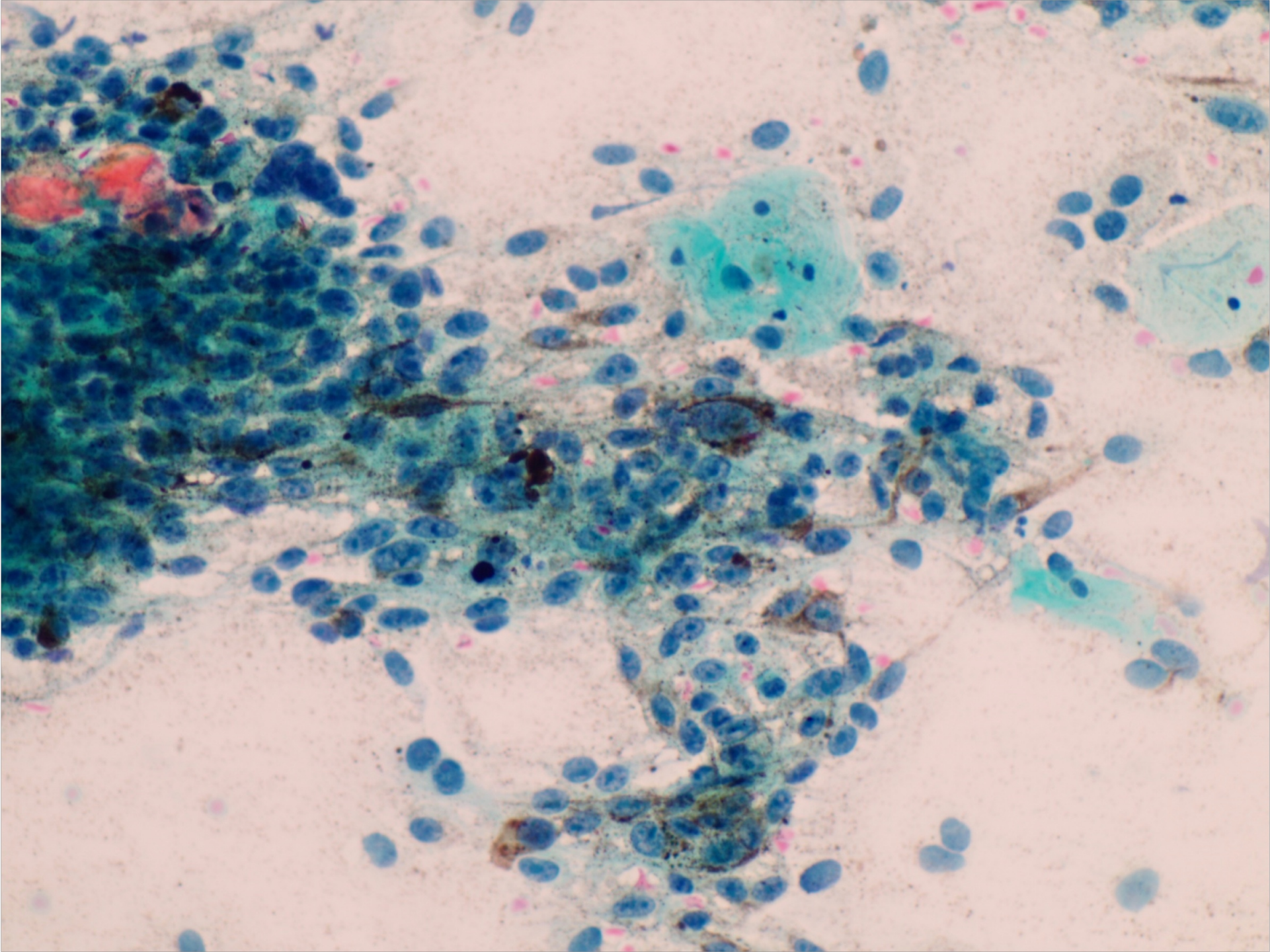
× 100



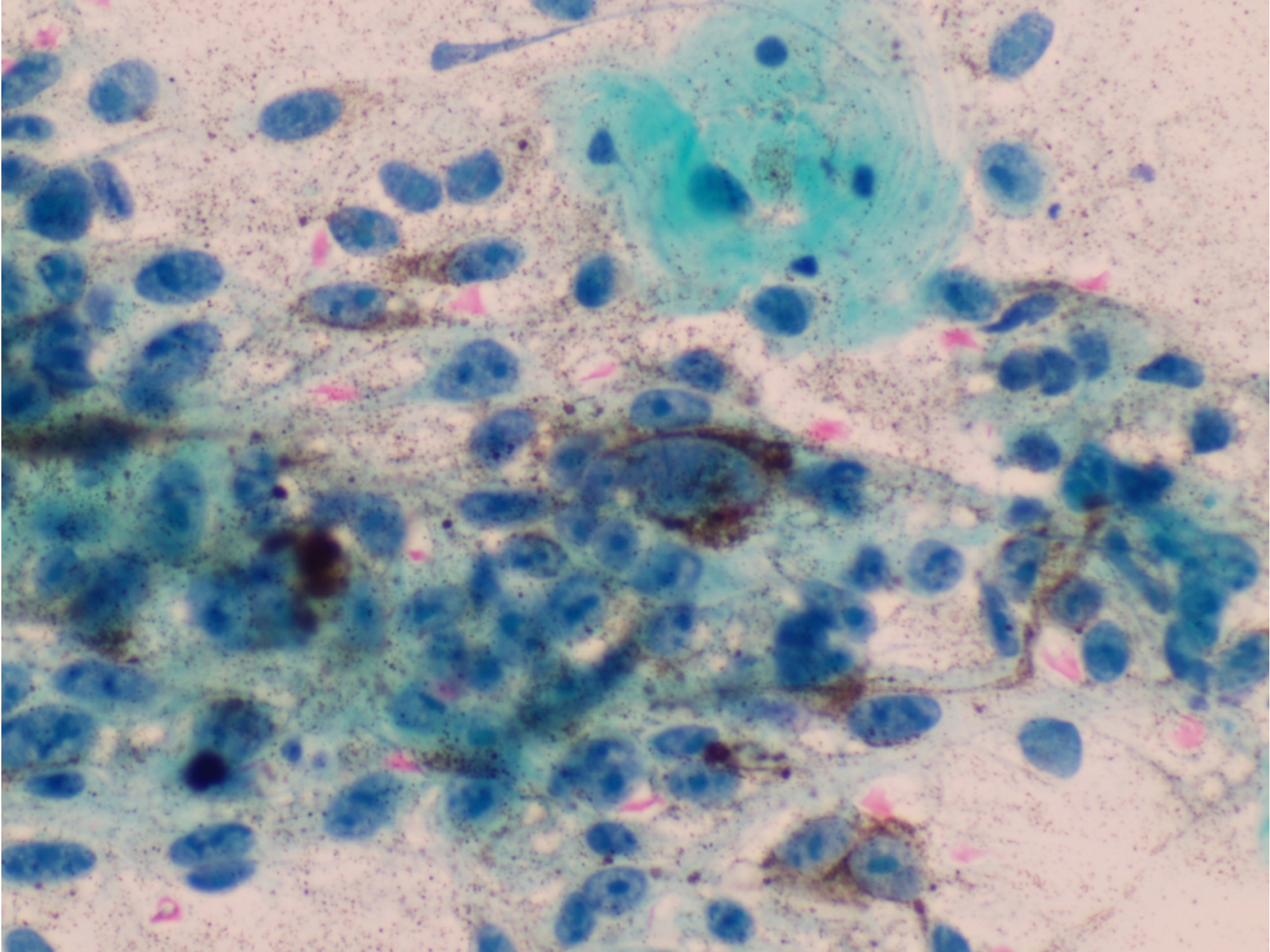
外 陰 部



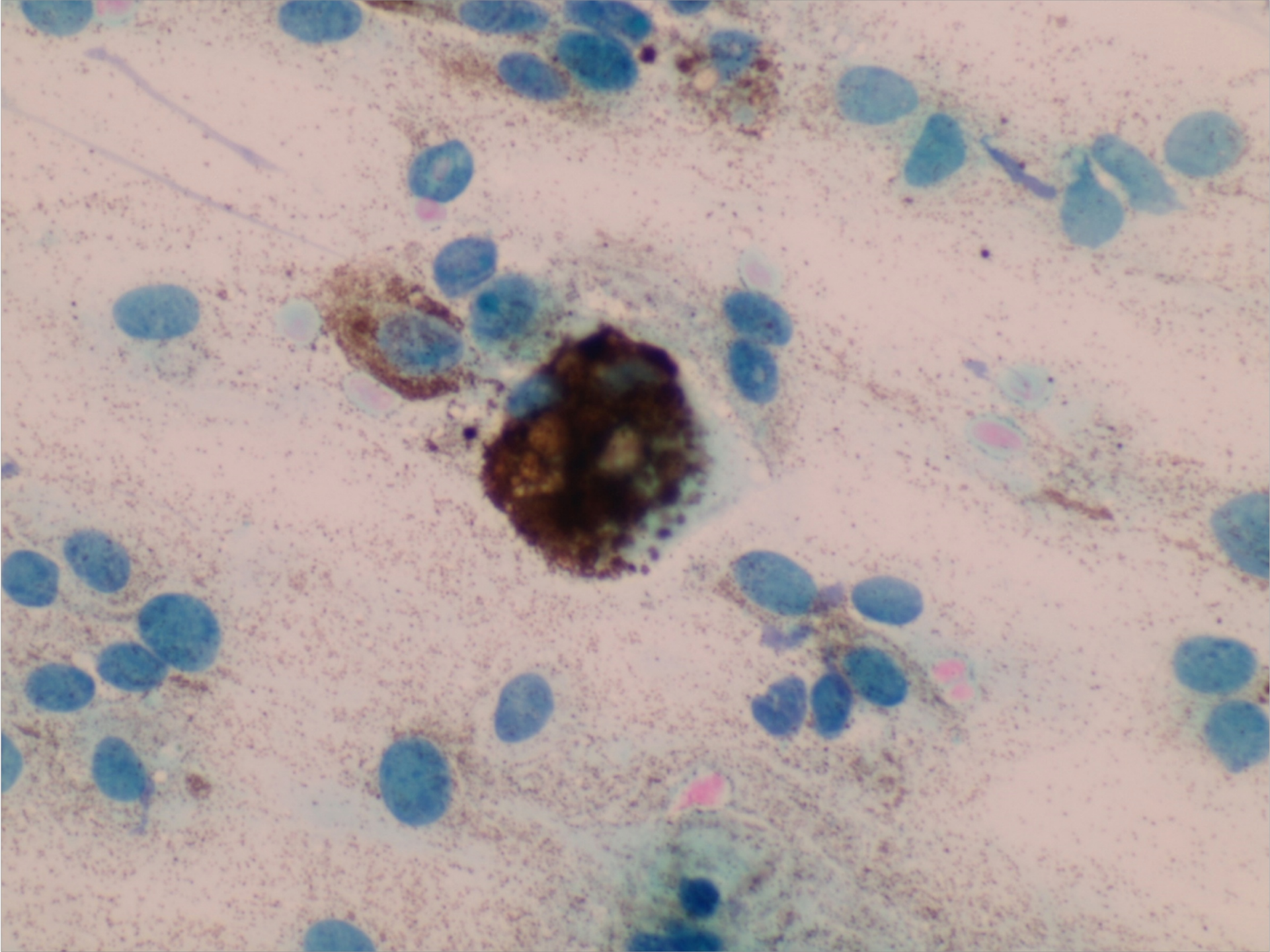
**× 10**



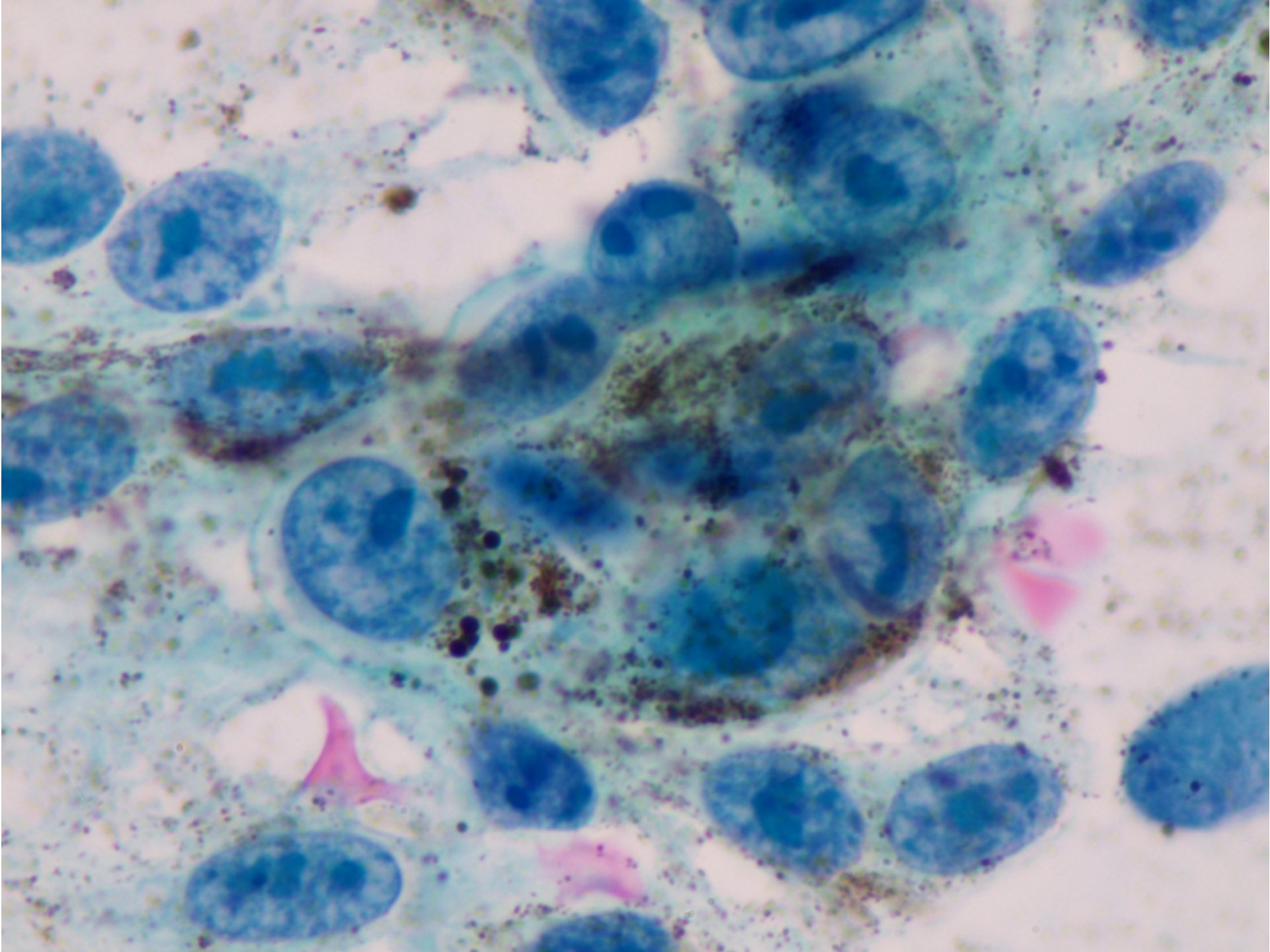
× 20



× 40



× 40



× 100

尿 : Class: V

腔断端 : Class: V /other malign.

**細胞診支部会 外陰部病変**

**F, 76-y-o**

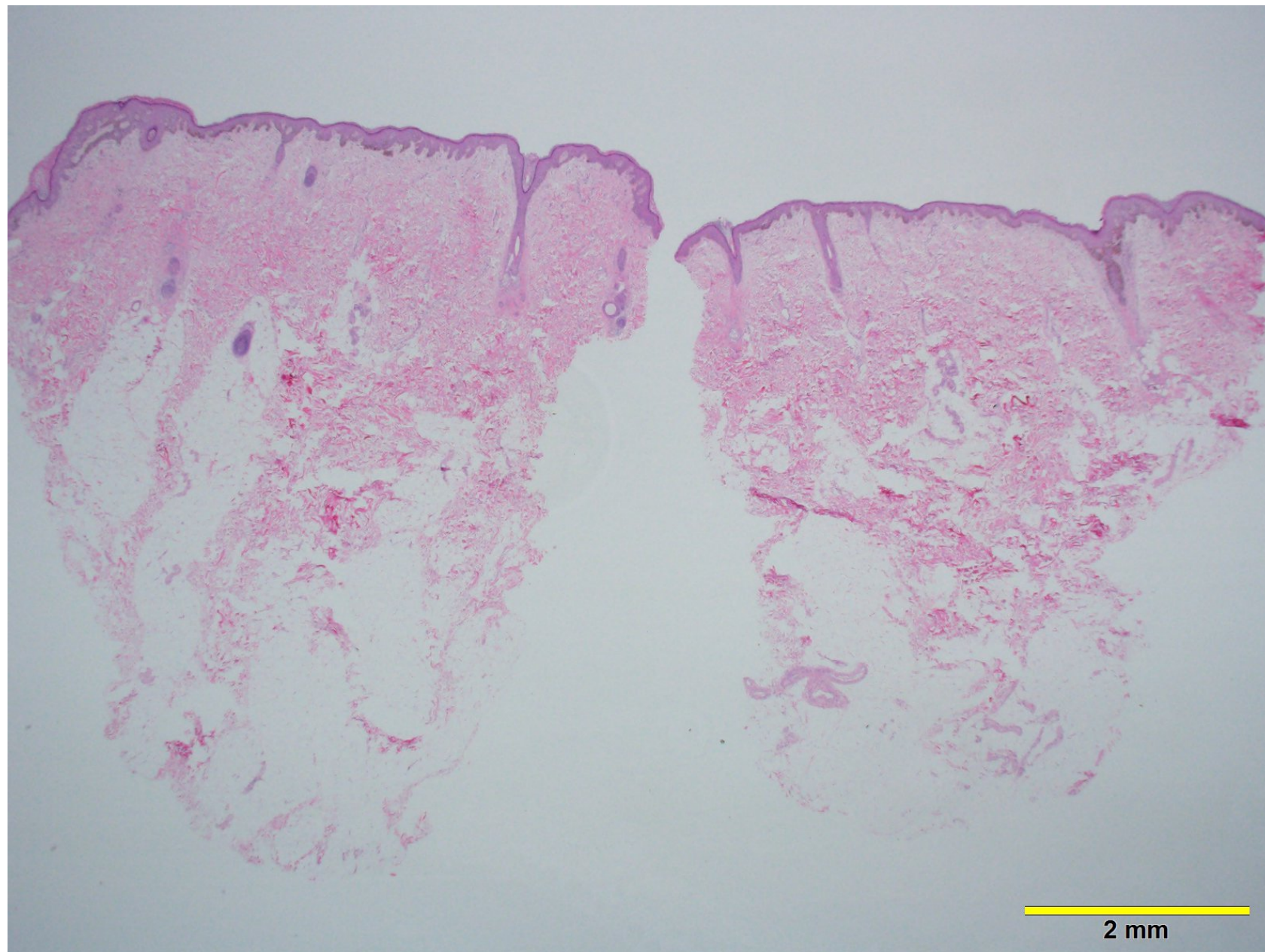
**C2018-4075,4076**

**P2018-2882**

**2018/09/15**

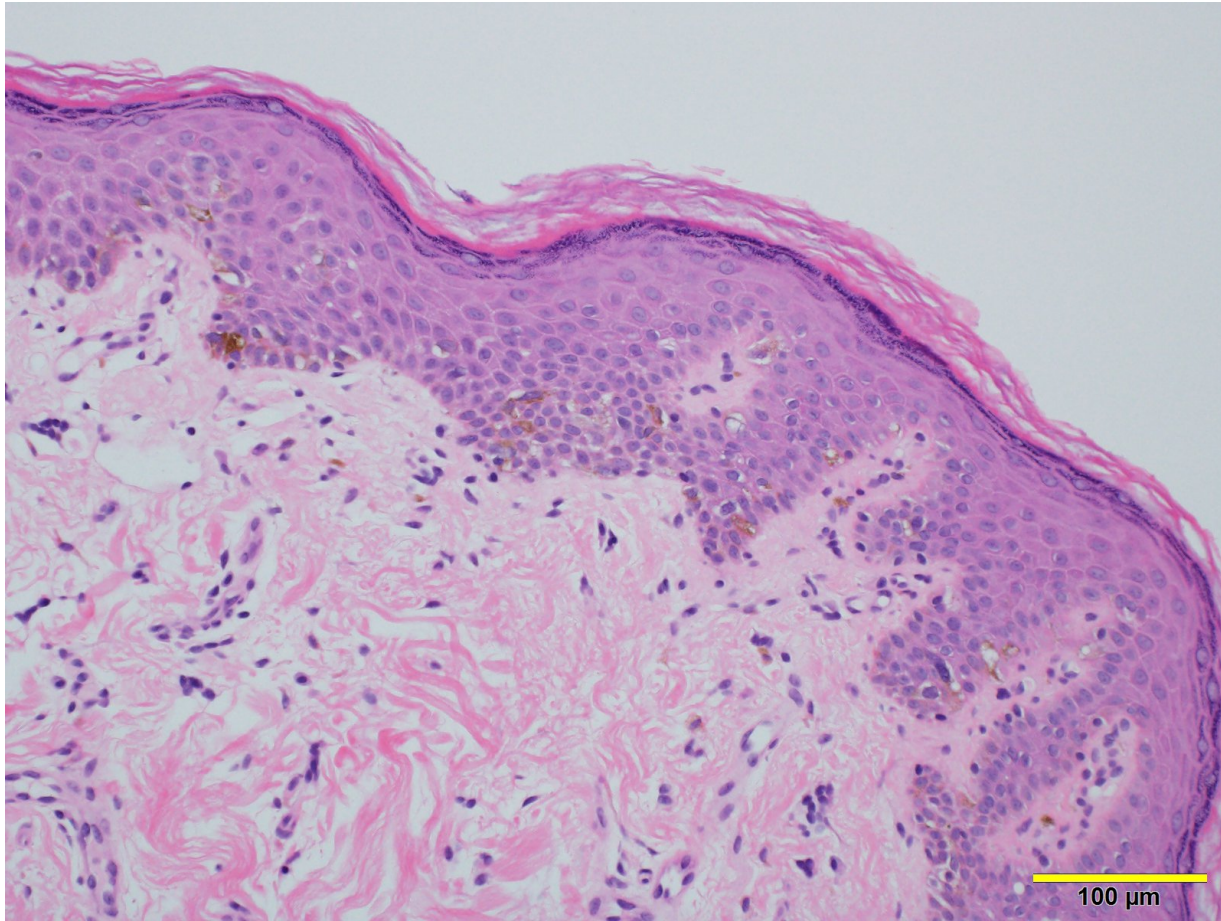


外陰部皮膚の  
小検体。  
表皮、真皮及  
び皮下脂肪織  
が採取されて  
いる。

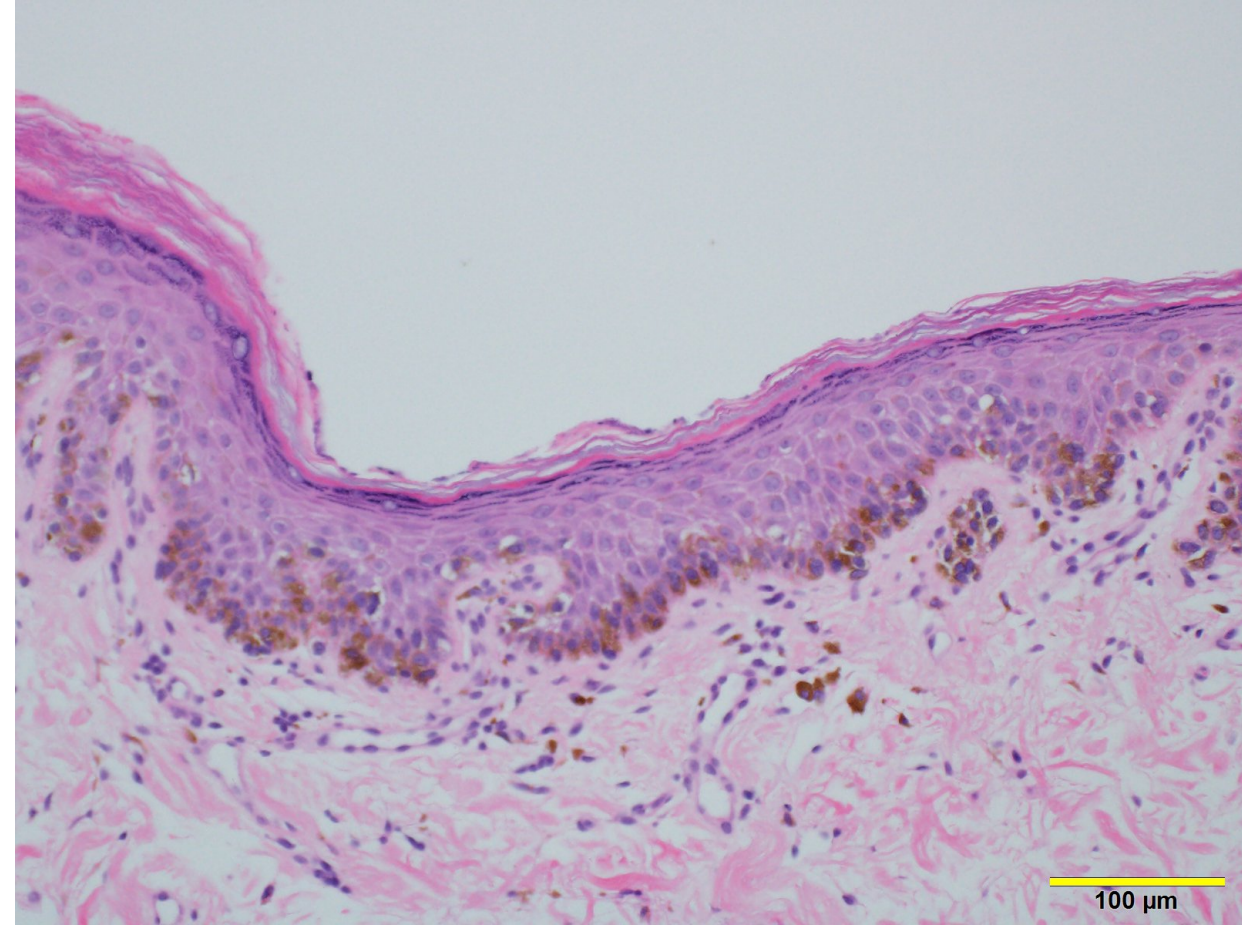


X12.5

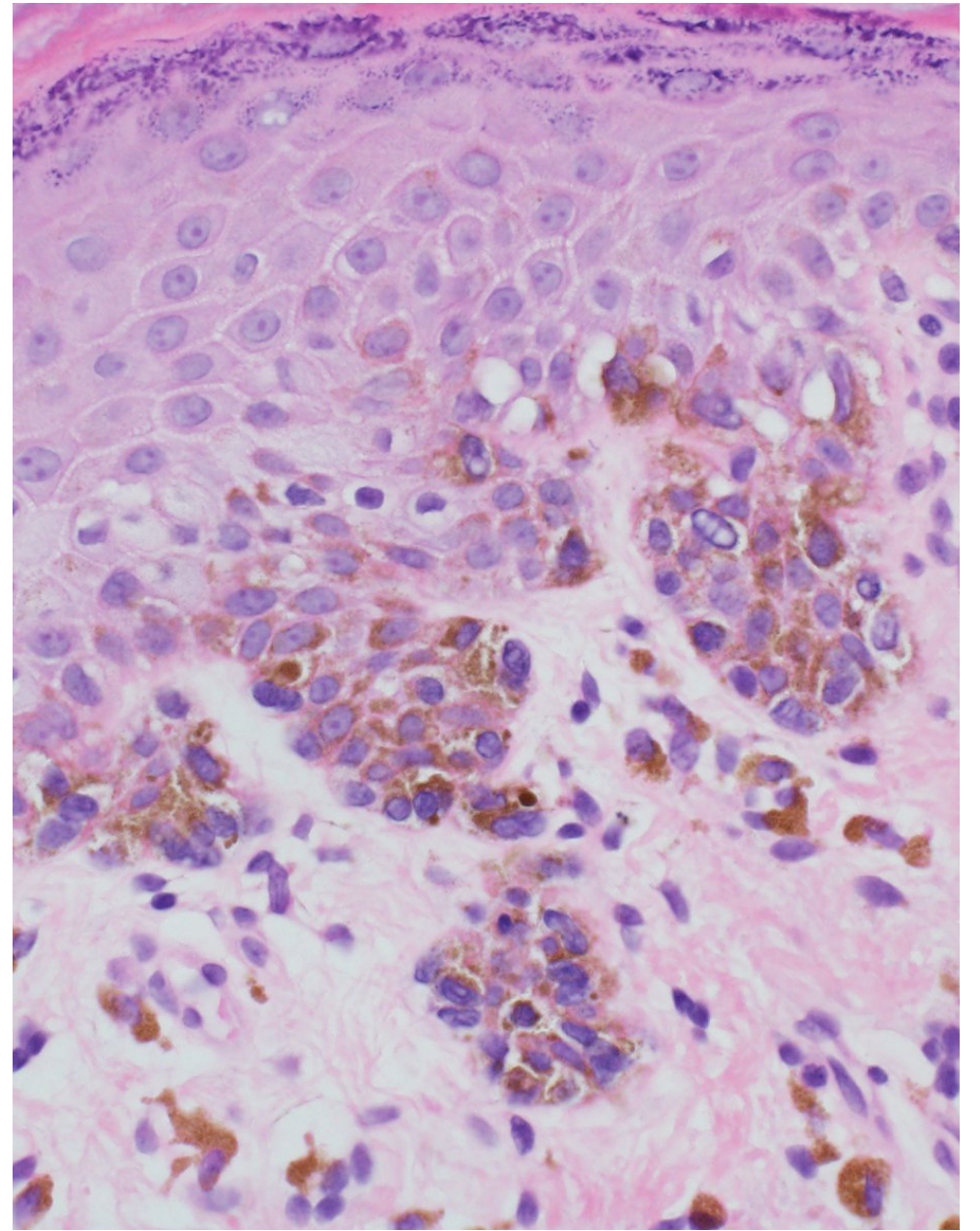
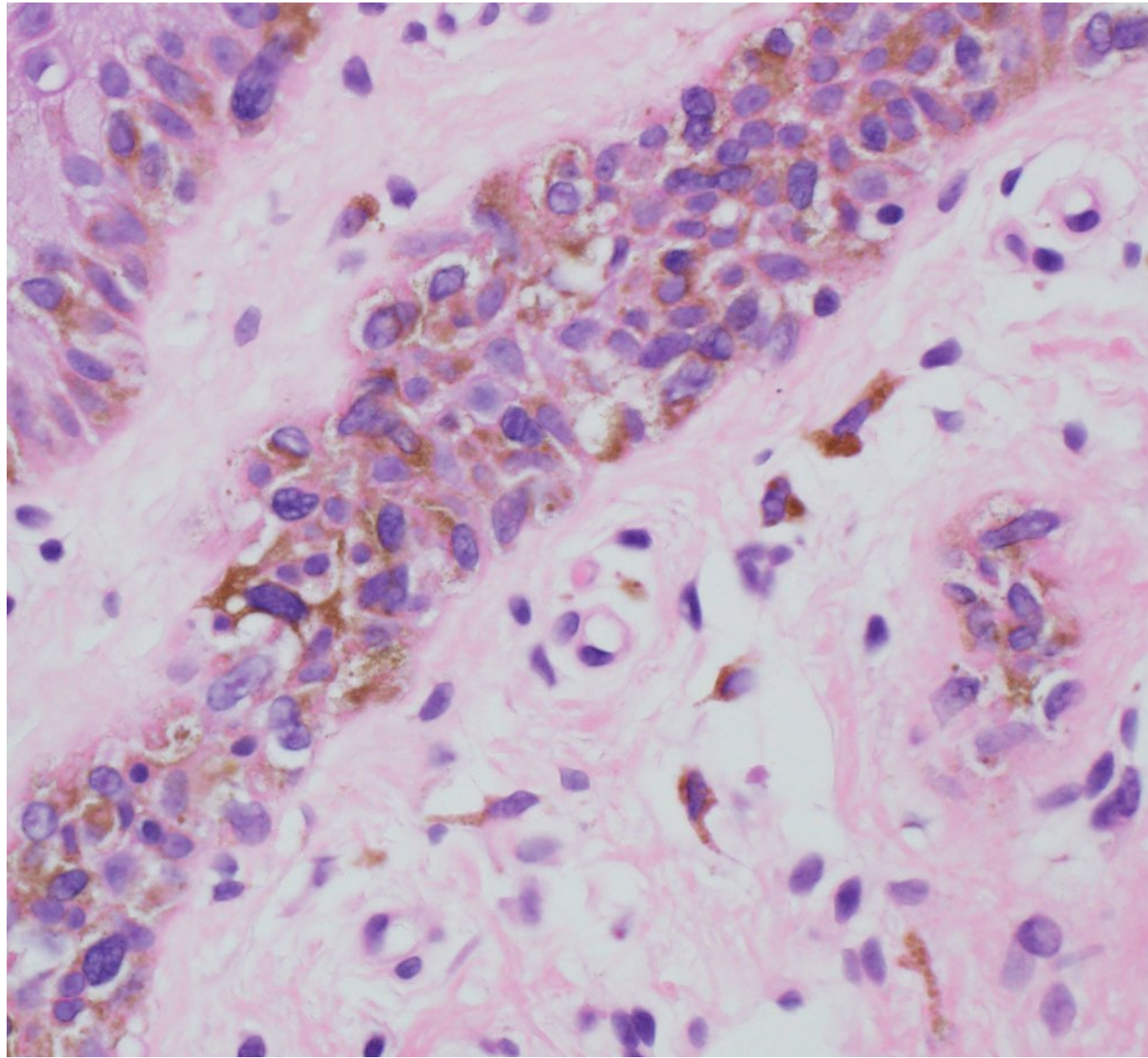
2 mm



正常表皮



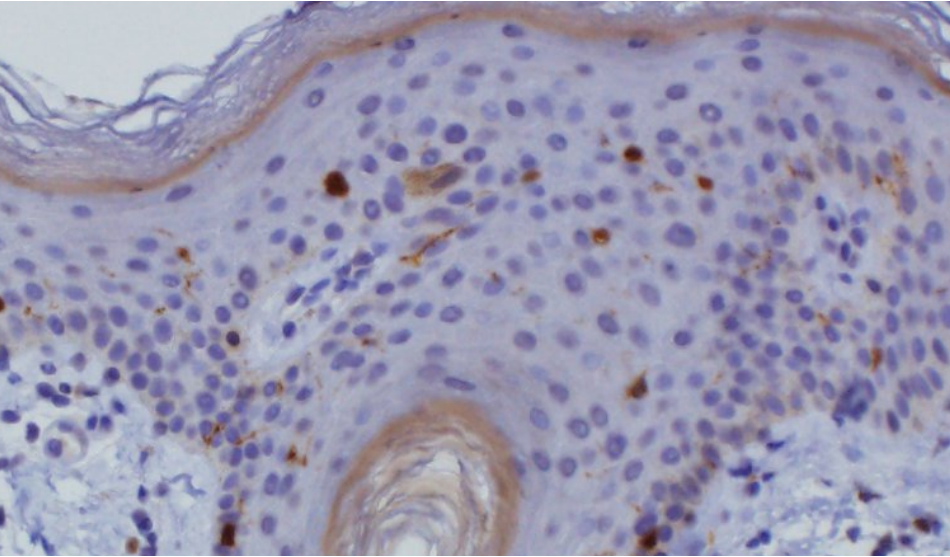
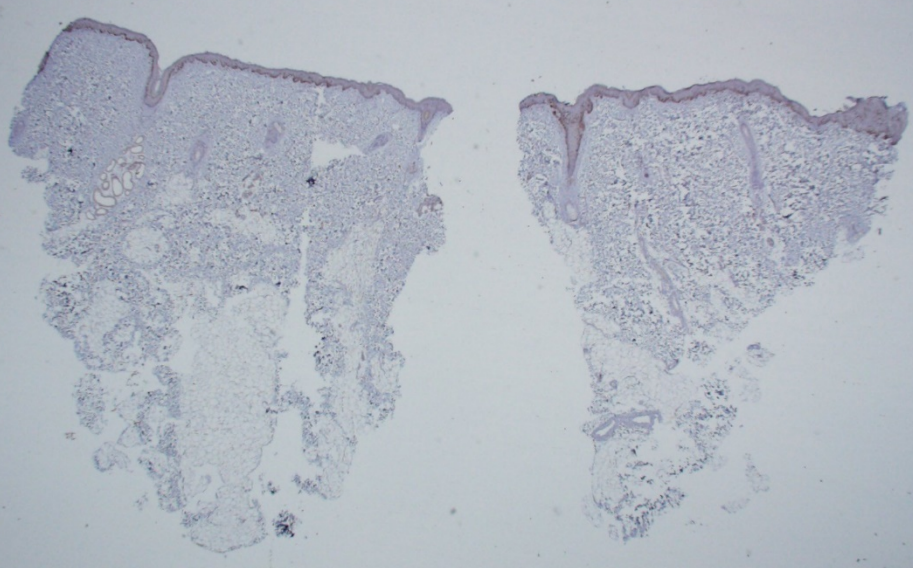
表皮基底層に位置する細胞は核腫大を示しメラニン色素を豊富に含む。melanoma in situの像で上皮浸潤はない。



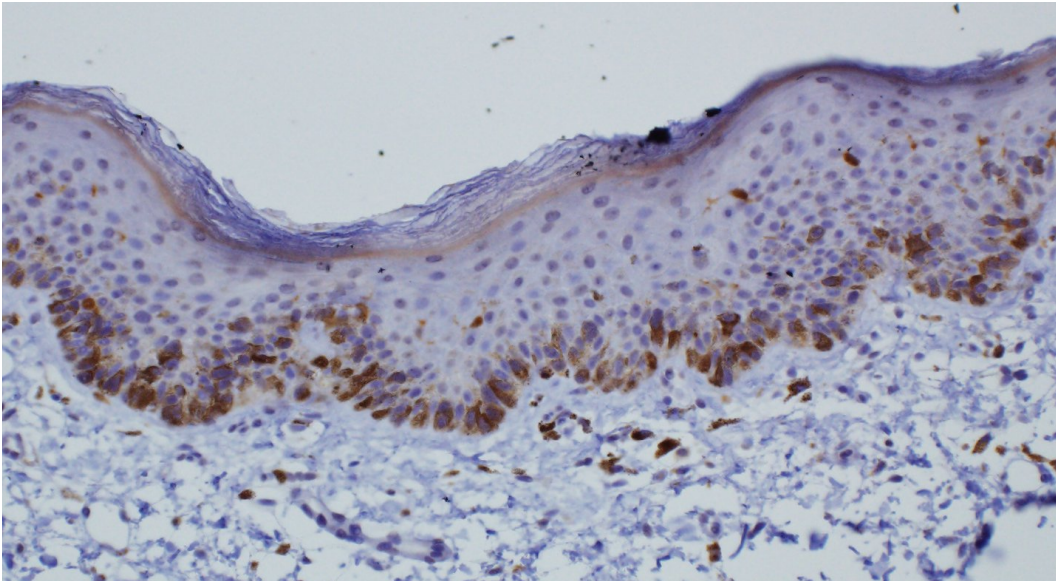
melanoma in situ 拡大像。黒色腫細胞は核濃染腫大、核小体腫大を示す。

**S100免疫染色**

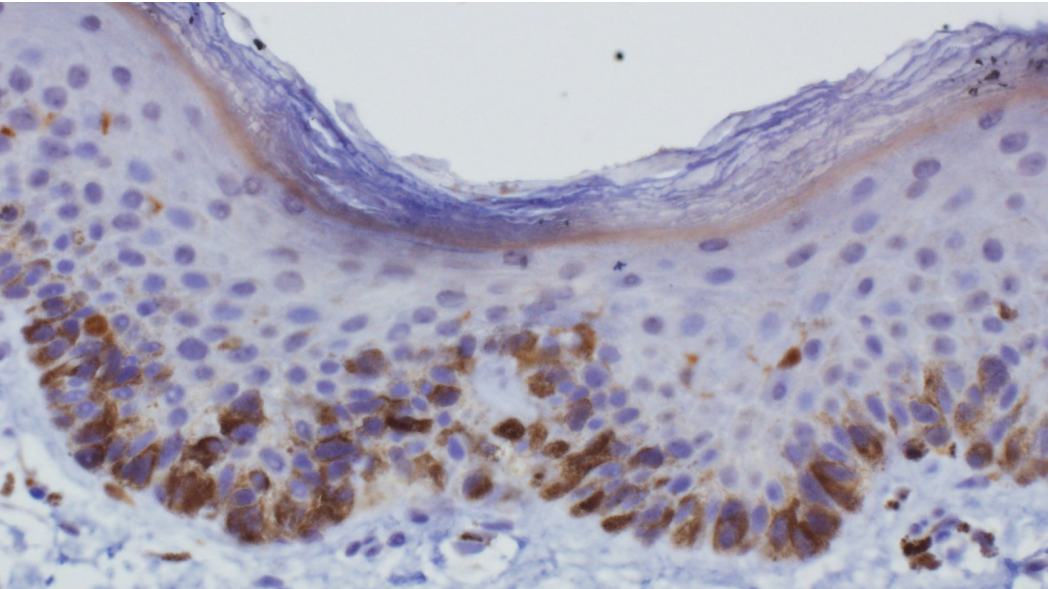
**X12.5**



**正常表皮  
X40**



**melanoma in situ x200**



**x400**

病理組織標本は、外陰部皮膚の小検体であり、表皮内黒色腫の像しか示せなかったが、臨床的には、外陰部に腫瘍があり、腫大した両側鼠径リンパ節を触知し、画像で肝臓、肺への転移を疑うとのことであった。